本号では南半球の農業大国，ブラジル，アルゼンチン，オーストラリアの3か国について，穀物等の生産・需給の現状を紹介するが，その前提として，世界的な穀物・大豆の需給が現状どうなっているかを下図で概観しておきたい。

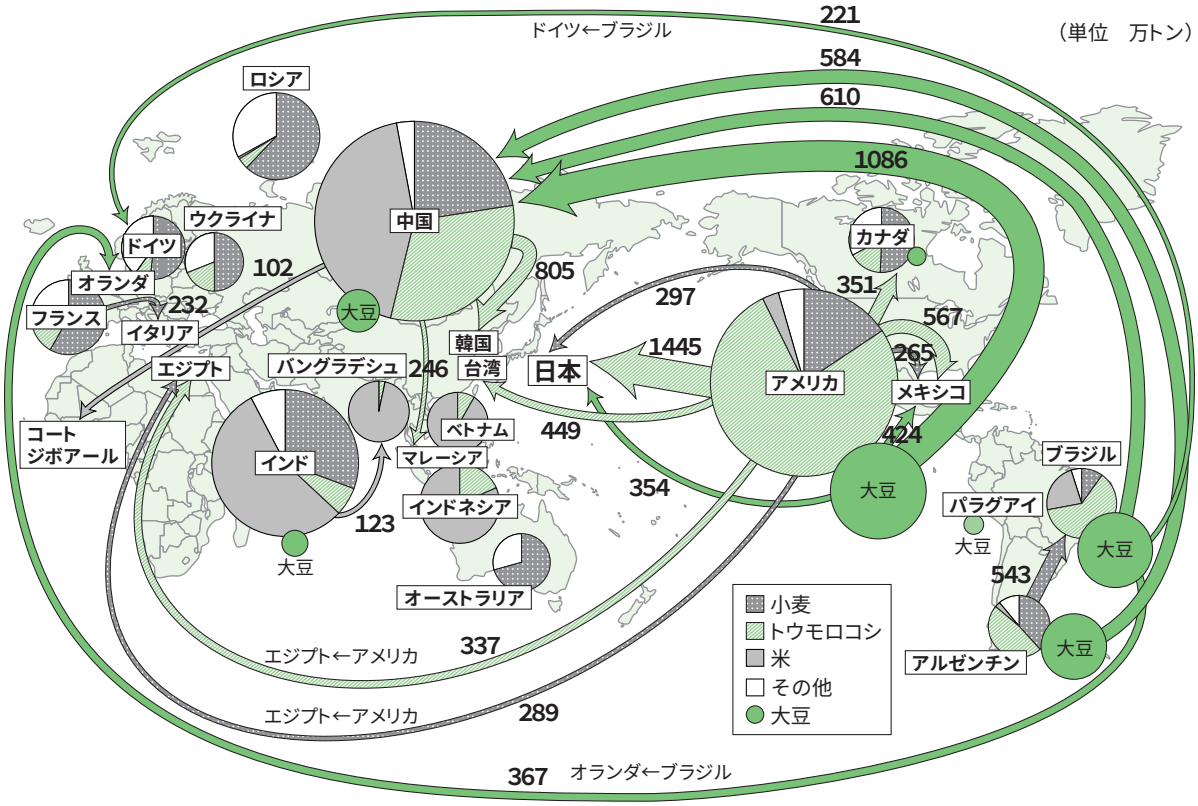
各国の生産量は円グラフの大小で示され，二国間の貿易量は矢印の太さで示されている。生産量自体は中国・インドといった人口大国もかなりの規模を有しているが，旺盛な国内需要により，輸出余力はほとんどない（中国から韓国へのトウモロコシ輸出が目立つ程度）。生産量・輸出量ともに圧倒的な規模を示しているのがアメリカであり，その輸出の中心となっているのが日本向けのトウモロコシと，中国向けの大豆である。

ブラジル，アルゼンチンからの中国向け大豆輸出も相当規模になっており，これら米州諸国から中国に向けた大豆の輸出は，近年の世界農産物貿易における極めて大きな流れとなっている。

小麦については，輸出・入先が分散される傾向にあることもあり，二国間の貿易として突出したものはないが，アルゼンチン→ブラジル，アメリカ→日本，エジプトといった流れが目立っている。

我が国の輸入状況を見ると，飼料穀物を中心にアメリカへの依存度が極めて高い。食用穀物等は飼料用に比して量的にかなり小さくなることから，図には表れていないものの，オーストラリアからの高品質な小麦，ブラジルからの大豆といった産品も我が国の食料調達を考えるうえでは重要である。

穀物・大豆の主要生産国（2005年）と2国間貿易（2003年）



資料　農業協同組合新聞（2006年10月16日）掲載。FAOSTAT（生産量），WATM（貿易量）を元に平澤（農中総研）が作成
（注）1　円グラフの面積は生産量，矢印の太さ（4段階）は貿易量を表す。
2　貿易量は200万トン以上（米のみ100万トン以上）を表示。
3　米は砕け米と籾米を含む。籾米は精米に換算。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。